


教育格差/エネルギー問題/過疎・高齢化/生産物のブランド化まで全てを解決するサステナブルツーリズム		取組開始時期	2020年 10月31日	取組の カテゴリ	地域活性化
1. 団体名	一般社団法人 こども食堂支援機構	2. 連携先の 団体	松山市、ANAホールディングス株式会社、SDGsオンラインフェスタ実行委員会、株式会社クリエイターズネクスト、その他 複数の協力申し出企業		
3. 取組 目的	日本一のSDGsツアー造成によってあらゆる社会課題を解決すること		4. 関連する ゴール		

5. 取組詳細（取組内容の詳細及び取組によって得られた成果、今後の方向性等）

**コロナにより修学旅行に行けなくなったこども達を
モニターツアーに招待し経験の機会を提供しつつ日本一のSDGsツアーを造成する**

本法人が考える今後の方向性

都心部の課題

- ・家賃を中心に高い物価
- ・それに伴う生活困窮世帯
- ・多くの学校が修学旅行を中止
- ・それに伴う経験の貧困

松山市の課題

- ・島嶼部の過疎・高齢化
- ・島嶼部の認知度向上
- ・みかんを収穫する働き手の不足

松山市の強み

- ・整備された太陽光発電
- ・太陽光を活用したカートでの周遊が可能
- ・みかん畑や豊かな自然環境

全てを解決するSDGsツアー

- ・太陽光カートで移動し
ミカン狩りなどの自然/生産業体験
- ・皮は加工品にしフードロス削減体験（予定）
- ・主に子どもをモニター招待し
ツアーのフィードバックを獲得しながら
経験の格差を是正
- ・関係人口を増やしつつ
移住に興味を抱いた方へのサポート

パートナー企業

- ・ふるさと納税等での経済的支援
- ・イベント/メディアでの告知
- ・みかんの皮の6次化製品化サポート（予定）

共感/支援

取組のポイント（3つの視点）

地方創生SDGsの視点

地域外の課題で地域の課題を解消
 島嶼部で深刻な過疎・高齢化/労働力不足という課題と、物価の高い都心部で深刻なワーキングプア家庭の問題、それに伴うこども達の経験格差という課題を掛け合わせることで双方の課題解決を実現。
⇒だから地域外からパートナーが集まる

ステークホルダーとの連携

単独の自治体を超えた課題解決
 地域を超えた理念により共感が得られたため、既にふるさと納税による支援など、構想1か月足らずで複数の企業が協力を申し出ている。将来的には売上の一部がこどもの招待費用になる一般向けのツアーとしても検討。
⇒社会全体でサステナブルな支え合い

モデル性・波及性

こどもの招待はどの地域でも可能
 そのため、やる気がある自治体ならどこでも実施が可能。また課題は地域によって千差万別なので、地域課題を解決するツアーにも地域ごとで中身に個性を出すことができる。ツアーを通じてSDGsの理念も広がる。
⇒日本全体のSDGsを底上げ

自由記述欄



修学旅行に行けなかった低所得家庭の親子

- ⇒はじめての旅行に行ける
- ⇒経験の貧困が解消され生涯所得の期待値も向上

松山市

- ⇒関係人口創出、移住促進
- ⇒サステナブルツアーのPR
- ⇒農産物の販路拡大

一般客

- ⇒SDGsの多様な形を学べる
- ⇒旅行代の一部で次の子どもを招待（検討中）

協賛者

- ⇒都市部/地域の課題の両方に対して貢献できる
- ⇒消費者への直接アピールでブランド価値向上
 - ↳子どもを含む若者層が直接受益者になるため
- ⇒ふるさと納税を使えば最大9割の税制優遇

みかんの皮を使った製品を加工する事業者（予定）

- ⇒原料を格安で調達
- ⇒ツアー参加者を中心に共感を集めてファン獲得

全ステークホルダーが満足する取組み